

要介護認定者の地域環境に関する分析 ー国民健康保険データベースを用いてー

金沢大学大学院	自然科学研究科環境デザイン学専攻	学生会員	○佐野 静香
金沢大学	理工研究域環境デザイン学系	フェロー	高山 純一
金沢大学	理工研究域環境デザイン学系	正会員	藤生 慎
金沢大学	医薬保健研究域保健学系	非会員	柳原 清子
金沢大学	理工研究域環境デザイン学系	正会員	西野 辰哉
金沢大学	人間社会研究域経済学経営学系	非会員	寒河江雅彦
金沢大学	先端科学・イノベーション推進機構	非会員	平子 紘平

1. 研究の背景と目的

我が国の平均寿命は年々伸び続け65歳以上の高齢者人口は過去最高の3,459人となり、総人口に占める割合（高齢化率）は27.3%と日本はすでに超高齢化社会へと突入している¹⁾。高齢化に伴い要支援・要介護認定者数は急激に増加しており、高齢化に加え少子化も進んでいる日本では20～64歳の働く世代、つまり高齢者を支える世代の割合が低下している。このような状況を受け問題となっているのが2025年問題である。約800万人いるとされる1947～1949年に生まれた団塊の世代が後期高齢者となる2025年以降、医療・介護費の増大、医師数と病床の不足、介護従事者不足による介護難民や老々介護などの問題がさらに深刻化するとされており、これらの問題へ対応することが喫緊の課題となっている²⁾。

2025年問題に対し医療・介護制度の見直しだけでは対応しきれないため厚生労働省では、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を推進している³⁾。高齢化の進展状況は大都市部・町村部等の地域によって差が大きいため、地域の自主性や主体性に基づき保険者である市町村や都道府県が地域の特性に応じて構築していくことが必要である。そこで本研究では医療ビッグデータである国民健康保険データベース（KDB）のデータを用いて町字別に要介護認定

者の分布の可視化を行う。そして要介護認定者と介護施設の職員数から地域の介護サービス状況について数値化し、地域における介護サービスの需要・供給バランスの実態を把握する。

2. 既往研究

KDBデータを活用し地域の健康増進を図る研究はいくつか存在するが、国保データベースを活用した地域包括ケアシステム構築に関する研究はあまり行われていない。それを受け本研究では、国保データベースを用いることで町字という詳細な地域単位で要支援・要介護認定者の暮らす地域環境の現状を数値的に把握するという点に新規性が認められると考える。

3. 分析概要

本研究で用いるデータは石川県小松市より提供されたKDBシステムより出力される「要介護（支援）者突合状況」である。このデータには75歳以上の後期高齢者で要支援・要介護認定を受けた人の情報が記載されている。小松市は石川県南西部に広がる加賀平野の中央に位置し、産業都市として発展した。面積は371.05km²、2017年4月1日時点の全人口は108,582人である。現在228の町字に区分される。小松市の高齢化は年々進行しており、2015年の高齢化率は27.6%と全国平均の26.6%よりも高い⁴⁾。

本研究では平成27年9月に要支援1・要支援2・要介護1・要介護2と認定され在宅介護サービスを利用している後期高齢者2574人を分析の対象としている。要介護3以

キーワード 国民健康保険データベース、要介護認定者、地域特性、介護サービス

連絡先 〒920-1192 石川県金沢市角間町金沢大学自然科学2号館7階2C712 TEL 076-234-4914

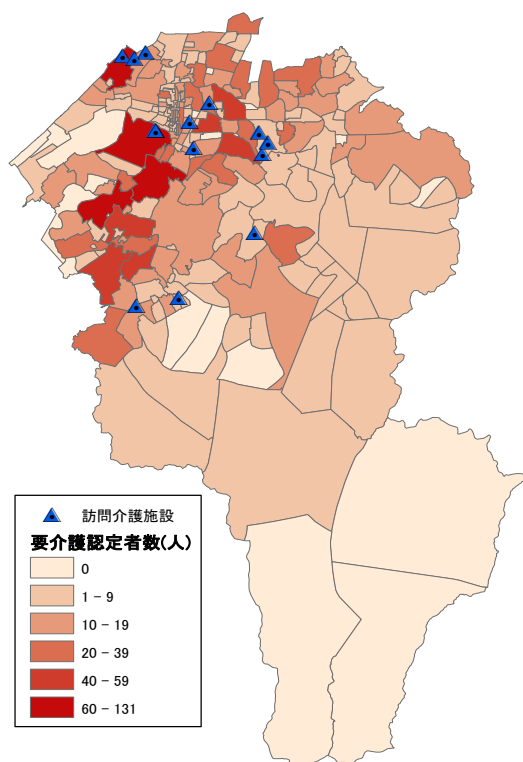


図-1 要介護認定者と訪問型介護施設の分布

上となると生活全般で介護が必要なため介護施設に入所し自分の住み慣れた地域を離れることとなる。本分析では要介護3以上に悪化する前段階の後期高齢者を対象に、訪問介護サービスの需要・供給バランスを把握する。

4. 分析の手順と結果

KDB データを用いて町字別に要介護認定者（要支援1から要介護2まで）の分布をGISで可視化する。要介護認定者は各町から最も近い距離の訪問型介護施設を利用すると仮定し、地域医療情報システム（JMAP）より明らかとなった石川県小松市内の訪問型介護施設13件それぞれの利用者総数を算出する。そして各介護施設の利用者総数を常勤換算職員数で除することで介護職員一人当たりの介護サービス利用者数が明らかとなる。なお常勤換算職員とは

「常勤職員の人数」＋「 $\frac{\text{非常勤職員の勤務時間}}{\text{常勤職員が勤務すべき時間}}$ 」
で求められる職員数である。

KDB データより明らかとなった要介護認定者の分布と小松市内の訪問型介護施設13件をプロットしたものを図-1へ示す。赤い地域は要介護認定者が多く、最も多い町で131人の要介護認定者がいる。それに対して要介護認定者数が0の町もあり、町字別の要介護認定者数には大きな差があることがわかる。図-2は各介護施設における職員一人当たりの訪問型

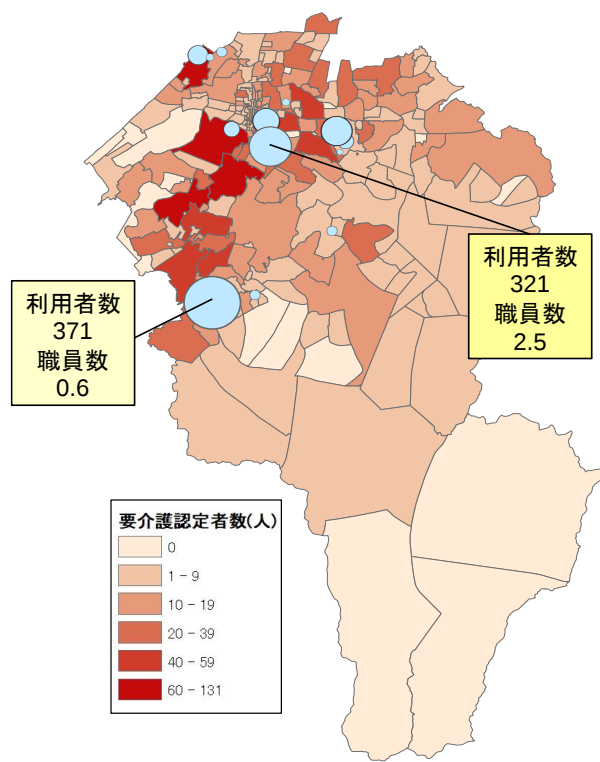


図-2 各介護施設の職員一人当たりの介護サービス利用者数

介護サービス利用者数の多さを示している。円が大きい施設ほど、職員一人が担う要介護認定者数が多いことを示す。職員一人当たりの介護サービス利用者数が多いところで618人、128人である。一人当たりの利用者数が最も少ないところで5人である。

5. まとめと今後の課題

要介護認定者の分布と訪問型介護施設の職員数より介護サービスの需要が供給を大幅に上回る地域が明らかとなった。しかし介護サービスの需要度合いは介護度レベル、要介護認定者の年齢などによって異なる。また介護施設の職員に対してアンケートを実施したので、今後は需要側と供給側の詳細な情報を含めて介護サービスの需要・供給バランスについて地域ごとに把握する。

参考文献

- 1) 内閣府 平成29年版高齢社会白書(全体版):第1節 高齢化の状況,
http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/zenbun/29pdf_index.html
- 2) 東京新聞「2025年問題とは?」2014年2月5日, No.483
- 3) 健康日本21(第二次)の推進に関する参考資料・厚生労働省,
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/dl/kenkounippon21_02.pdf
- 4) GD Freak!小松市(コマツシ石川県)の人口と世帯《高齢化率の推移》,
<http://jp.gdfreak.com/public/detail/jp010050000001017203/2>